

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
概 評 ——出題の特徴・特記事項		
<p>大問数は 3 題で、出題形式は記述式であった。昨年度に比べ、計算問題・論述問題の出題数と論述の総字数は減少したが、枝問総数は 10 問以上増加した。論述の総字数も 60 字の減少であるので、全体的に分量がやや増加したといえるだろう、また、あまり受験生が見慣れない知識が一部問われ、正答すべき問題とそうでない問題との差が明確であったが、全体を通じて解きやすい問題も多かった。過去には描図問題なども出題されているので資料集や問題集などで確認し、図を描く練習をしておく必要があるだろう。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	細胞膜 細胞小器官 細胞分画法	<p>(4) ヤヌスグリーンはミトコンドリア、酢酸オルセインは核の染色に用いるので、沈殿 1 は核、沈殿 2 はミトコンドリア、細胞質基質は上澄み 1~3 に含まれる</p> <p>(v) 核とミトコンドリアには DNA が存在しリソソームには DNA が存在しない。</p> <p>(vii) タンパク質 DSS には緑色蛍光タンパク質が融合しているため、操作④で緑色の結果になっている分画にはタンパク質 DSS が存在する。このことと、冒頭のそれぞれの細胞小器官の存在する場所を照らし合わせればよい。</p>	やや難
II	ゲノム編集 転写 電気泳動 生態系サービス	<p>(3) ① 患者では GAA リピート数が異常に伸長しているため、塩基対数が多いものが患者の結果であると考えられる。</p> <p>(3) ② cDNA は成熟 mRNA を逆転写酵素で 2 本鎖 DNA にしたものである。設問文に患者の mRNA の全長は変化しない、量は減少するとあるので、「健」と同じ位置にバンドがあり、太さが細いものが正答となる。</p>	標準

設問別講評			
III	花芽形成 植物ホルモン 生活形 バイオーム 子実体の季節的な出現	全体的にやや細かな知識が問われており、苦戦した受験生も多かったと思われる。 標準的な知識を問われている設問にどれだけ正確に解答できたか、論述問題でいかに部分点を獲得できたかが重要な大問であった。 (4) ② グラフの概形のみで判断すると (イ) も正しいように思えるが、それぞれの菌糸成長速度 100 の実際の速度の大小は不明である。したがって、菌種 A~C の速度を比較することはできない。	やや難

設問構成 (設問数・形式・内容)								
大問番号	設問数 (枝問総数 [※])	選択式 枝問数	記述式 枝問数	語句 ^{※1} (空所補充) (一問一答)	計算	論述	描図 ^{※2}	その他
I	4 問 (22)	13	9	21	0	1	0	(4) (ii) 60 字以内
II	8 問 (24)	11	13	22	1	1	0	(4) : 40 字以内
III	4 問 (29)	11	18	28	0	1	0	(3) ②75 字以内

※ 「枝問総数」は各設問 (小問) に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問 (小問・枝問) の総数。設問形式・設問内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した。

※1 化学式・構造式・化学反応式を含む。

※2 グラフ・図を含む。

合格のための学習法
同志社大学の入試問題は、全体としては標準的な良問で構成されている。一部に細かな知識を問われる問題も見られるが、高校生物の教科書・図説などをよく理解した上で、標準的な問題集や標準的な国公立大学の計算問題や考察問題などを繰り返し演習しておくといよい。今年度は、昨年度に引き続き様々な知識を問われつつも、考察問題も例年に近いレベルで出題されている。過去問に鑑みれば、同志社大学の入試問題では重厚な考察問題が出題されるため、その対策をしっかりと行っておきたい。考察問題の演習では、問題文を丁寧に読み、何が問われているのかを常に意識しながら、解答を端的にまとめ上げるようにしたい。